

JR木ノ本駅から始まるぶらり歩き

毎月15日号では、市内各地域をリレーで特集し、それぞれの魅力の紹介を行っています。合併により広くなった市域には、皆さんがまだ知らない長浜の魅力がたくさんあります。



木之本地蔵院
JR木ノ本駅を出て東へ地蔵坂を上ると、見えてくるのが木之本地蔵院。その建立の背景には不思議な言い伝えがあります。



木之本宿本陣薬局
街道沿いにあるのは古い町屋だけではありません。現在、人々の交流の場・文化の発信基地として活用されている「きのもと交遊館」はかつての銀行を改修した施設です。昭和10年に新築された洋風建築で、銀行の合併などを経ながら50年にわたり使用されてきました。その後しばらくは空き家になっていましたが、北国街道の歴史を物語る資料として保存されることになりました。

い伝えがあります。奈良・葉師寺の僧が地蔵尊を安置する場所を求めて北国街道を下ってきた折、この地に生えていた柳の大木の元に腰をおろし休んでいました。休憩を終え、地蔵尊を再び背負おうとしますが、全く動きません。僧はここが縁のある地なのだと思ひ、地蔵院を建立したのでした。「木之本」という地名はこれのお話に由来します。

ここまで来たら、もう一度、木ノ本駅前まで戻りましょう。実はここに県内最古の図書館があります。明治39年(1906)年に設立された「江北図書館」は滋賀県で唯一の私立の公共図書館です。「青少年から教育、教養の糧を奪ってはならない」という思いをもって、百年以上の長きにわたり運営されてきました。昭和和大恐慌や第2次世界大戦の影響で県内の図書館が次々と消滅していきな、多くの人々の知的好奇心を満たす役割を担い続けてきたのです。平成19年に創立百年を迎えた江北図書館は、今も地域に根差した図書館として運営されています。



開設当時の様子
江北図書館理事長の富田光彦氏は「県内各市町に公立図書館が設立された今日においても、江北図書館の役割は薄れてきました。しかし、今日まで献身的に



江北図書館
木之本町木之本1362
☎82-4867

※公益財団法人には寄付金の優遇措置があります。

人々が行き交う駅。その周辺にも地域の魅力はあふれています。その一つ一つを大切にしていきたいですね。皆さんも、最寄りの駅からぶらり旅、いかがですか。次号では余呉地域の情報をお送りします。

子ども達の学びの環境づくりのために

長浜市内の県立学校のあり方や教育・人材育成について話し合い、県教育委員会へ提言していくことをめざす「長浜の未来を拓く教育検討委員会」。1月27日に開催しました第2回会議の結果をお知らせします。

○アンケート調査の実施が決定しました

市内の県立学校のあり方などを検討する基礎資料とするため、市内の中学生や高校生、およびその保護者を対象として、アンケート調査を実施することが決定しました。

【調査内容】「志望校の決定方法」や「これからの高校に求めること」など10~14問

【調査期間】2月1日~2月17日

【調査対象】約5,200人

①市内在住の中学2年生およびその保護者

②市内在住の15歳~16歳(ただし、H7.4.2~H8.4.1の間に生まれた人)およびその保護者

【調査方法】①については学校を通じて配布・回収 ②については郵送による送付・回収

○県立学校の現状と課題、今後の展望について各学校から報告を受けました

会議には長浜高校、長浜北高校、長浜農業高校の各校長が出席され、学校教育に関する取組み状況や教育方針、地域における役割や学校に寄せられる期待についての報告がありました。なお、出席されなかった残る4校(定時制含む)については、事前に各学校から提出された資料を事務局から報告しました。

○教育関係団体などからの意見を聴くことが決定しました

次回以降の会議で、「市PTA連絡協議会」「市小中学校長会」「市学校運営協議会」と「湖北の高校を守る会」などの教育関係団体から意見を聴き、検討の材料とすることが決定しました。

当日の委員会資料や会議要録は、市ホームページに掲載していますのでご覧ください。

また、高校再編や人材育成などに関するご意見は、Eメールまたは書面にてお寄せください。いただいたご意見は、検討委員会に報告いたします。

企画広報課 ☎65-6505、Eメールkikaku@city.nagahama.lg.jp

市内で2番目に人口が多い六荘地域。今回はここで活発な活動を展開されている六荘地区地域づくり協議会の皆さんにお集まりいただきました。懇談では、長浜で大規模災害が発生した場合について、「この地域の指定避難場所である六角館に、備蓄品等の災害への備えが必要ではないか。」との問題提起があった一方、「今後、行政と地域住民が連携し、指定避難所のモデルをめざしていきたい。」とのお話がありました。災害への備えについては、原子力災害も考慮して検討していきたいと思っております。

また地域づくり協議会について、「市の考え方や今後の方向性が不明瞭」とのご指摘があり、「地域づくりに対する指針」を明確にすることや、「財政支援の検討」を要望されました。また、地域づくり協議会の活動を市民へ広く知らせる必要があること、活動への市職員の積極的な参画を求めていることを述べられました。今後、基本計画を策定し、市の財政的な支援や地域づくり協議会の活動を支える仕組みについても検討していきたいと思っております。当面の財政支援については、昨年から提案

座ぶとん会議

市では、風通しのよい開かれた市政を実現するために、市内の自治会をはじめ、自主的な地域活動を行っているグループ等を対象に、市長が市民の皆さんの生の声を聴く「座ぶとん会議」を開催しています。

自助・共助・公助と地域内分権の推進

